



▲神道山古墳群

神道山古墳群は、香取市香取字神道にある前方後円墳1基と、小円墳1基からなる古墳時代後期の古墳群です。

昭和52年5月20日に市史跡に指定されましたが、実はこの前方後円墳かつて「御陵墓」ではないかと大々的に報じられたお騒がせ古墳なのです。御陵墓とは、天皇家、もしくはその関係者の墓のことです。

昭和3年6月17日の朝日新聞は「古ふん発見―香取神宮主の御陵墓か」の大胆な見出しで『考古学の研究者吉田文俊氏は千葉県の官幣大社香取神宮付近の史跡踏査中、神土山と称する奥山に二千八百年を経た貴人の御陵墓と見られる大古ふんを発見。十六日県庁より富田社寺課蜀、豊澤千

葉高等女学校長同地へ出張精細調査の結果同古ふんは香取神宮主神経津主命の御陵墓らしいとの観測がついたので、

近く香取町より御陵墓発見届を正式に県に提出し県より内務省に報告し専門家の実地調査を経てこの陵墓を決定することになった」と報じています。

その後、内務省にどのような報告がなされたかはわかりませんが、この古墳が御陵墓に決定されることはありませんでした。

翌年3月に千葉県が刊行した『史跡名勝天然記念物調査第六輯』の調査報告によると、丘陵の頂上に全長46・8mの前方後円墳を中心として陪塚（大きな古墳に接して作られた小さな古墳）と思われる

直径9mから14・4mの円墳11基が散在するとしています。

また、古墳の所在地が香取神宮に近接していることや、この地を香取神宮の祀官が所^{しかん}有していたなどの点より考えれば、神宮と古墳との間に多少の縁故はあるかもしれませんが、神宮にはこれに関する古文書や伝説などはないとされています。

くしくも同月4日には、満州（中国東北）に配備されていた関東軍による張作霖^{ちやうさくりん}爆殺事件が起きています。その後日本は、満州事変を経て戦争へと突き進んで行きます。降つてわいた武勇神の御陵墓騒動は、このような時代背景と無関係ではなかったように思われます。